

龍ヶ崎市子ども読書活動推進委員会委員 各位

龍ヶ崎市教育委員会教育長  
(公印省略)

令和4年度第1回子ども読書活動推進委員会会議の書面開催結果  
について(報告)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、みだしの会議について、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面により開催し、10名中すべての委員から書面表決書をご提出いただき会議が成立しましたのでご報告します。お諮りした議案の結果は、下記のとおりです。参考までに頂戴しました意見等を、別紙1のとおり取りまとめましたのでご覧ください。お忙しいところご協力いただき、ありがとうございました。

## 記

### 1 会議の成立

【龍ヶ崎市子ども読書活動推進委員会条例第6条2項【会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。】】

▽提出数10名で定足数を満たし、会議が成立しました。

### 2 書面表決結果

▽議案第1号 委員長・副委員長の選出について

承認10名 否認0名

▽議案第2号 龍ヶ崎市子ども読書活動推進計画(第三次)令和3年度  
取組実績報告について(令和3年4月1日~令和4年3  
月31日)

承認10名 否認0名

【問合せ】龍ヶ崎市教育委員会

文化・生涯学習課 担当:武田

TEL 64-1111(内線228)

FAX 60-1582

E-Mail syougai@city.ryugasaki.lg.jp

令和4年度第1回龍ヶ崎市子ども読書活動推進委員会（書面決議）における委員からのご意見・質問に対する回答

No.	委員のご意見，質問	回答	回答担当課
1	<p>○新規の取組に注目して見ました。</p> <p>p1 学童保育ルームへの「本のおまかせ便」</p> <p>p4 「赤ちゃんと楽しみ絵本の読み聞かせ講座」</p> <p>p8 「世界おはなし」，「東京オリンピックパラリンピック」をはじめするテーマ展示</p> <p>p9 プレパパ・ブレママ教室の際，絵本のコーナーを設け絵本に触れる機会を設ける</p> <p>○歴史についてまなぶ</p> <p>p5 パスファインダーの配付 夏休みに「住井すゑ」「龍ヶ崎城についてしらべる」</p> <p>p11 出前講座で「龍ヶ崎牛久の昔話」，「いいつたえられているおはなし」など郷土について学べることは大切だと思った。</p>	<p>○新規の取組に注目について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学童保育ルームへの「本のおまかせ便」は市内のルーム8校へ配送を行い，とても好評です。今後もルームの児童に図書を届けることで身近に本がある環境を作り，読書推進に繋げてまいります。</li> <li>・赤ちゃんタイムイベントは，子育ての参考になるような実用的なテーマで継続実施します。</li> <li>・展示は，今後も，展示内容等への興味から読書に繋がるような工夫をしていきます。</li> </ul> <p>○歴史についてまなぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土資料に関しては今後も継続して実施していきます。</li> </ul>	中央図書館
2	<p>「読書についてのアンケート」集約結果は，少し残念な思いで読みました。コロナ感染症のため，図書館や学校図書館の利用が減ったことは仕方がないと思いますが，小学生以上の「読書が好き」etcの減りは，改善していく必要があると思いました。</p> <p>また，対面でのイベントが以前のように行われることが望ましいですが，今の間に情報発信の仕方等，今まで以上</p>	<p>対面のイベントについては，現在，密を避けるために事前受付や整理券発行等を行い，入館時の検温・手指の消毒を実施して，新型コロナウイルス感染症対策を行いながら再開しています。</p> <p>会議開催については，感染状況等を考慮しながら，対面開催を行っていきたいと考えていま</p>	中央図書館 文化・生涯学習課

	<p>の工夫をしていくことで、今後の利用につながるのではと感じました。(図書館について)</p> <p>この会議についても、なるべく対面で開催され、皆さまの意見を直接聞けることを願っています。</p>	<p>す。</p>	
3	<p><b>【第三次推進計画を振り返って】</b></p> <p>○方針1 施策2 (2) -② 図書館ボランティアの活用と育成</p> <p>「第二次推進計画」において、数値目標が達成されなかった「中央図書館の子ども読書活動に関するボランティアの登録数（平成27年度実績52名〈目標値84名〉）」について、「第三次推進計画」の課題として継続されることが明記されています。本計画実施期間中、登録者数は増えましたか。現在のボランティア登録数および拡充する上での課題についてお教え願います。</p>	<p>令和3年度のボランティア登録者数は、お話し会31名、ブックスタート19名の50名で平成27年度実績の52名を下回る結果となっています。</p> <p>ブックスタートは、赤ちゃんにも絵本がよく見えるよう、ボランティアと赤ちゃん・保護者が膝を突き合わせて読み聞かせを行うため、新型コロナウイルス感染症対策のために、令和2年度から休止しています。</p> <p>図書館のおはなし会も令和2年度以降は、休止、または少人数制で開催しています。図書館職員が読み手・語り手となって開催し、ボランティアによるおはなし活動は休止し、新規募集も行っておりません。</p> <p>このようなことから登録ボランティア数が増加しませんでした。</p> <p>今後、おはなし会等の感染対策を考慮しながら、開催するとともに、ブックスタートについては、少子化による3～4か月健診受診者の減</p>	中央図書館

		少を考慮し、拡充が必要かどうかを含めて事業内容を見直す必要があると思われます。	
4	<p><b>【第三次推進計画を振り返って】</b></p> <p>○方針1 施策2 (1) -② 教育研究会図書館研究部における研究の奨励</p> <p>「達成目標」については、「読書が好きと答えた児童生徒の割合」、「平日に1日当たり10分以上の読書をする(割合)」、「目標設定なし」などがあります。一方「達成度」の表記についても、令和3年度のように「児童生徒の割合」であったり、「児童」と「生徒」を分けて比率が明記されていたり、「未記入」であったりします。これらの統一性のなさや差異をどのように理解すればいいのでしょうか。因みに、達成目標の78%はどこからきているのでしょうか。</p>	<p>「達成目標」の「読書が好きと答えた児童生徒の割合」、「平日に1日当たり10分以上の読書をする(割合)」の2つの数値は全国学力・学習状況調査(市内小6・中3 悉皆調査)でとっています。達成目標の78%は令和元年「読書が好きと答えた児童生徒の割合」の国の数値が74%だったため、市の目標を78%としました。その後、コロナウイルス感染症拡大のため令和2年度は調査自体がなくなったり、令和3年度は調査の項目がなくなったりして一定した回答が得られなかったという原因があります。令和4年度は、この2つの項目があるため、達成目標の指標としました。</p>	指導課
5	<p><b>【第三次推進計画を振り返って】</b></p> <p>○方針1 施策4 (1) -④ 「みんなにすすめたい一冊の本」事業の活用達成目標は毎年度同じで、小4-6年生が70%、中1-3年生が25%となっています。目標値を一定に保持する理由が何かあるのでしょうか。平成30年度～令和3年度の達成度をみると、中1-3年生が毎年20%前後でほぼ横ばいであるのに対して、小4-6年生のそれは、64.6%(H30)、61%(R1)、59%(R2)、52%(R3)と減少傾向が</p>	<p>茨城県は、児童生徒の読書意欲を高めるため、平成17年度から「みんなにすすめたい一冊の本」事業を行っています。県の達成数値を近年10年ほどで見ますと、小学校では65～75%と幅広くなっていますので、市では70%を数値目標として設定しています。中学校は毎年20%前後の達成率となっていますので、市としては25%を目指していきたいと考えています。</p>	

	<p>目立っています。何が影響していると考えられますか。また、今後の改善策についてもお聞かせ願います。</p>	<p>県の結果を見ながら数値を決めているところですが、毎年同じ数値目標になっているところは今後検討していきたいと考えます。</p> <p>小学校の達成度減少傾向になった原因として、令和2年度、3年度の臨時休業日が多かったことが考えられます。小学生にとって、学校図書館は身近に本を借りられる場所です。その場所を利用する機会が減ったことが、読書量の減少につながったと考えます。</p>	<p>指導課</p>
<p>6</p>	<p><b>【読書についてのアンケート集計結果】</b>  アンケート実施対象及び回収率  ①中学校2年生，高校2年生の回収率が10-20%程度低下しています。学校内での回収率の低下はどこに原因があるのでしょうか。  ②保護者を対象とした調査の回収率が激減しています。なぜなのでしょう。調査方法を変更したのでしょうか。その要因についてお聞かせください。</p>	<p>今回のアンケート回答は、スマートフォンなどの情報機器の利用が浸透し、小中学校ではタブレット端末が1人1台整備されたことに伴い、回答や集計が効率的に行える、いばらき電子申請届出サービスを活用した電子アンケートとしました。但し、小中学校については、電子による回答が困難なケースも想定されたため、紙のアンケートも用意し、電子か紙かを選択できるようにしました。</p> <p>アンケートへの回答は任意ですが、前回、紙で実施した際には、各施設で自主的に提出を働きかけいただいた経緯があります。今回は、未回答者の把握が難しく、回答の働きかけが困難であったことが要因であると考えられます。</p>	<p>文化・生涯学習課</p>

7	<p><b>【読書についてのアンケート集計結果】</b>  小学校5年生の集計結果に注目しました。</p> <p><b>Q1 読書は好きですか</b>  「3 どちらかと言えば好きではない」、「4 好きではない」を合わせた比率が24.2%で、前回の約2倍となっています。要因としてどのようなことが考えられますか。</p> <p><b>Q2 読書は大切だと思いますか</b>  報告書では「学年が高くなると、読書は大切だと思う、少し思うの割合が低下している」と分析していますが、小学校5年生の比率は高学年のそれよりも低くなっています。</p> <p><b>Q3 1ヶ月に本を何冊くらい読みますか</b>  「4 1冊～3冊くらい」、「5 本を読まない」の合計が26.9%（前回14.7%）で前回の2倍弱増加しています。要因としてどのようなことが考えられますか。</p> <p><b>Q8 読書をしないのはどうしてですか</b>  小学校5年生の20数%、中学校2年生の約30%が「つまらない」からと回答しています。前回の調査結果にも同様の傾向が見受けられました。これをどのように受けとめていますか。これまでどのような改善対策や取組みが進められてきたのでしょうか。お教え願います。</p>	<p><b>Q1・Q3・Q8</b>  近年は、様々な情報機器に触れる機会が多くなりました。スマートフォンやタブレット等を使用し、好きなゲームやアプリを楽しんでいる時間が長くなっていることが読書時間や読書数が減少している要因の一つと考えます。</p> <p><b>Q2</b>  ご指摘のとおり、小学校5年生が「読書は大切だと思う」、「少し思う」と回答した割合は、中学校2年生、高校2年生より低く、全体でも低くなっていますが、全体では、右肩下がり傾向にあると考えます。</p> <p><b>Q8</b>  5年生になると、教科書の字も小さくなってきて、本好きの児童は長編の小説を好むようになります。逆に、活字が小さくなった本や小説に苦手意識を持ち始める児童が多くなる時期でもあります。読書が苦手な児童にとっては、読書よりもゲームや動画視聴の方が楽しく、読書はつまらないと感じるのではないかと考えます。対策としては、学校図書司書を配置し</p>	
---	--	---	--

<p>発達段階に応じた取組みによる読書習慣の形成や、読書への関心を高める取組みの充実が必要ではないでしょうか。</p> <p><b>Q14 市立図書館のYA (ヤングアダルト) コーナーを知っていますか</b></p> <p>「第三次推進計画」策定以前の平成24年にYAコーナーが設置されたにも拘わらず、前回同様、今回の調査結果でも、中学生2年生、高校2年生の約90%は「知らない」と答えています。認知度があまりにも低いと言わざるを得ません。どのような要因が考えられますか。</p> <p>収集計画やサービスを充実する上においても、YAコーナーの利用状況の把握が不可欠だと思いますが如何でしょうか。これまでの利用状況および今後の課題、活動内容についてお聞かせください。</p> <p><b>Q16 電子図書を読んでいますか</b></p> <p>全体の約4~5割が「読んでいる」と回答しており、前回よりも増えています。また、報告書の分析の通り、今後の利用が多くなることも予想されます。利用拡充の方途についてはお教え願います。</p>	<p>て、学校図書館の利活用を推進してきたところです。学年に応じた読み聞かせや本のスタンプラリー等のイベントを通して、本に触れる機会を増やしております。低学年から本に親しみ、楽しみながら読書することを通して、豊かな心の育成につなげていきたいと考えます。</p> <p><b>Q14</b></p> <p>図書館内のYAコーナーを、利用しやすい場所に移動したところ、貸出は増加傾向にあります。しかし、中高生のYA認知度は、図書館利用率が低いことも含めて、大きな課題です。ただし、今年度の中高生の貸出利用数全体を見ると、前年度に比べ増加しています。(13歳~18歳の貸出 令和2年9372冊令和3年13038冊、3666冊増加) また、中高生の忙しいスケジュールの中でも「利用している」が増加している電子図書に注目して、電子図書館の周知を市内の学校と連携して、進めていけるよう調整してまいります。今後も、中高生の読書推進に関しては、その年代への呼びかけと、子供時代からの読書習慣を身に着ける環境等も含めて取り組んでまいります。</p>	<p>指導課 文化・生涯学習課 中央図書館</p>
--	---	-----------------------------------

8	<p><b>【読書についてのアンケート集計結果】</b></p> <p>月9冊以上の本を読む児童・生徒の読書傾向  何を目的に、上記の児童・生徒を対象としたクロス集計を行ったのでしょうか。何を明らかにしようとしたのかお聞かせください。</p> <p>クロス集計を通して、現状の問題点や今後の課題等を見出すことが大事となります。そして、それらを今後の改善策やサービスの向上につなげていくことが肝要ではないでしょうか。</p>	<p>アンケートでは、Q3「1ヶ月に本を何冊くらい読みますか」で1冊以上読むと回答した児童生徒にはQ4からQ7で読む本のジャンルや読書をする理由等を、本を読まないと回答した児童生徒には、Q8で読書をしない理由を回答してもらいました。後者は、本を読まないと回答した児童生徒が対象ですが、前者は1か月に1冊以上読むと回答した児童生徒の総計となります。本を読まない理由に対して、何らかの対応が必要であることはもちろんですが、1か月に9冊以上読むと回答した、読書量の多い児童生徒の読書の傾向を探ることで、今後の施策の改善等についてヒントがあるのではないかとの思いで分析を実施しました。</p>	文化・生涯学習課
---	---	--	----------